





応援団の福山亜矢

誰もが憧れる
理想の恋人

それは
俺の彼女でもある

誰から見ても

俺はきつと完璧な彼女と
付き合ってると思う

そんな俺はサッカー部の
エース 鈴木優

亜矢の口
とても柔らかい…

うっ…
気持ちいい

しかし…

アッ

アッ





「うん」めん...

私まだ心の準備
できてない……

ま、待って……

でも経験してみても
はじめて分かることもあるよね



う…うん……

本当に
ごめんね

付き合ってから何年も経つのに

亜矢はずっと本番を受け入れて
くれない……



そ、そうだったの…

じゃあまだダメ
ってこと……？

俺は数日後、大事な
試合を控えている

そんな俺を試合に
集中させるため

キャプテンは一時的に
俺の携帯を没収した

この数日間をあえて
亜矢と会うのをやめよう

と決心してはみるが
俺は時々自然と亜矢の家に
足を運んでしまっていた

亜矢今日も早く
寝ちやったみたいだな

ここ数日
毎日こんな感じだ

来れば亜矢の

人影でも
見れると思ったのに……

んあっ

んあっ

んあっ

んあっ

ズン
ズン

んあっ

んあっ

んあっ

んあっ

あつ、最高
気持ちいい……

セックスって
本当に……



ここ何日かのセックスは
確かに最高だったけど

なんでずっと
暗闇の中だったの？

しかも優君なんか
いつもと違ったよ

実は

やあああ！

「これ本当に優君？」
って不思議に思うこともあった

チエツ……

あ！

ズキ
ズキ
ズキ



ん♡あ♡
っ♡

深い！

奥まで
突きささる！

ん♡あ♡
っ♡

それ……

まさに
その感じ……

セックスの時の
優君

すごく強引

そして少し
乱暴

でも……

ブッ
ブッ
ブッ

ブッ
ブッ
ブッ

この手の乱暴
なぜか嫌いになれない
...

いや....

もっと攻めても
いいんだよ！

私むしろ大好き
かも

もっと優君に
強引に犯されたい！

強引なセックスしてくる
優君大好き

うんうん....

いい感じだ





パッパッパッ
パッパッ

パッパッ
パッパッ

パッパッ
パッパッ

パッパッ
パッパッ

んあっ
んあっ

うっ
そろそろだ

そうそう

優君もっと強引に
挿入して

乱暴なこの
感じまるで
媚薬のように

私を
興奮させる！

あっ！

イ、イク

パッパッ
パッパッ

パッパッ
パッパッ



か

あ

あ

パッ
パッ
パッ

んあああ♡
イッ、
イッちやった!

最深部まで連打で
突きささる

あ…
ま、また生で
中出し……

温かい液体が流れて
ゆくのを感じる

この感じめっちゃ
刺激的だけど……

あとで避妊薬ちゃんと
飲まなきゃ

あつ! まっ
待って……



あら...

今はまだ...

ダメ、ダメ！

またビチヨビチヨになっちゃった



あーあ...

また
シャツ洗わないとな

.....



ここ数日

ほぼ毎日
洗濯してるな



抜いてはダメ

やあぁ！

あぁ



今日も優のやつ
来てたんだな

やっぱり

感動するぜ

本当に彼女のこと
思ってるんだな



でも、本番を
許してくれない彼女
と会っても

もっと悩みが
増えるだけだろうな



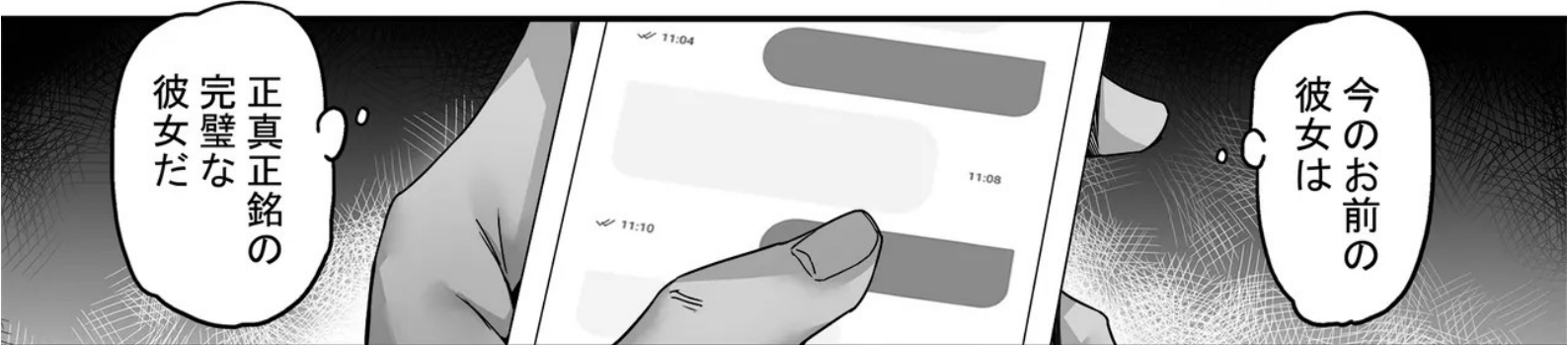
彼女とずっと
一線を越えられない

状態から
なかなか抜け出せずに…

そうだとしたら

試合の準備に
集中できるはずがない









今日の練習
本当に満足だ！

そうだよ
特に優のやつ
大活躍だったな

この調子でいけば
次の試合
勝てる見込みあるな！

はは
褒めすぎだよ

そんなに
褒めんなって

みんなの力合わせて
全力で頑張ろうぜ！

おい、この場面では
謙遜なんかするな

あ
キャプテン



ほらよ、携帯
しばらくの間返すよ

試合も近づいてきた
彼女に会って

リラックスして来い



あ、ほ、本当に
いいんですか？



うん……

お前ってやつは

主力としての
覚悟が足りてないな



昨日の夜亜矢が
寝入った後

この数日間の空白を
埋めるために

念入りに二人のメッセージ
内容を仕込んでおいた

それは大変な
作業だった

まずこの数日間の
亜矢とのやりとりを削除して

それから亜矢の携帯から
会えない不満を優に
送る

これで完璧
だろう

優君最近
忙しいの？

試合に向けて練習
大変だよ

ずっと返信
ないんだけど

明日会うこと
できる？

最後につじつまが
合わない内容を
削除して

それぞれが見るべき
メッセージだけ残して
おけばよし

それで優の方からも
亜矢と会う約束を
切り出す

亜矢、明日の午後練習
終わって
会うことできる？

今回は学校で
違うこととして遊びたい

んうゝもう
朝なの？

部屋の中は優君に
あげた香水の匂いと

なんかロマンチックな匂い
が混ざっている……

匂うとなんかまた
興奮してきた

今晚も優君早く
来てくれないかな

あっ！
優君からの
連絡だ

亜矢、明日の午後練習
終わって
会うことできる？

今回は学校で
違うこととして遊びたい

ははっ

優君も私と早く
会いたがってる
本当に私達
気が合うわ

明日の夕方
大丈夫だよ！

講堂の前で
サプライズがある

もしよかったら
直接来て欲しい

やったー！

亜矢が講堂の
前で俺を
待っている？

運よくちょうど
携帯も戻ってきた
マジで俺たち心が
通い合ってる！

待ってろよ！

ふふ……

早く俺が用意した
ご褒美を
味わうんだな

その後ちゃんとまた
試合に向けて
集中するんだぞ！

亜矢
着いたよ

待ってたよ！
中に入ってきて

亜矢もう中に
いるの？

ここ数日会って
ないから

なんか妙に
テンション上がるな

カッ

あっ…
こ…

これは……



これは...

…垂矢なのか？

こんなのマジで…

誘いすぎだろ……

ゴッ

うっ、俺のあそこが…
瞬時に反応してきた

今まで
見たことのない
亜矢のこんな一面

前もこんな魅惑的な
ボディ見たことあったけど

さらに優雅で芸術的な
ボディになっている……

あ…もうダメだ…

今すぐ亜矢に飛びかかって
抱きしめたい

あの柔らかな亜矢の肉体に
包み込まれたい！

今ここに漂う
亜矢の淫乱な呼吸音







いや
なんか違う

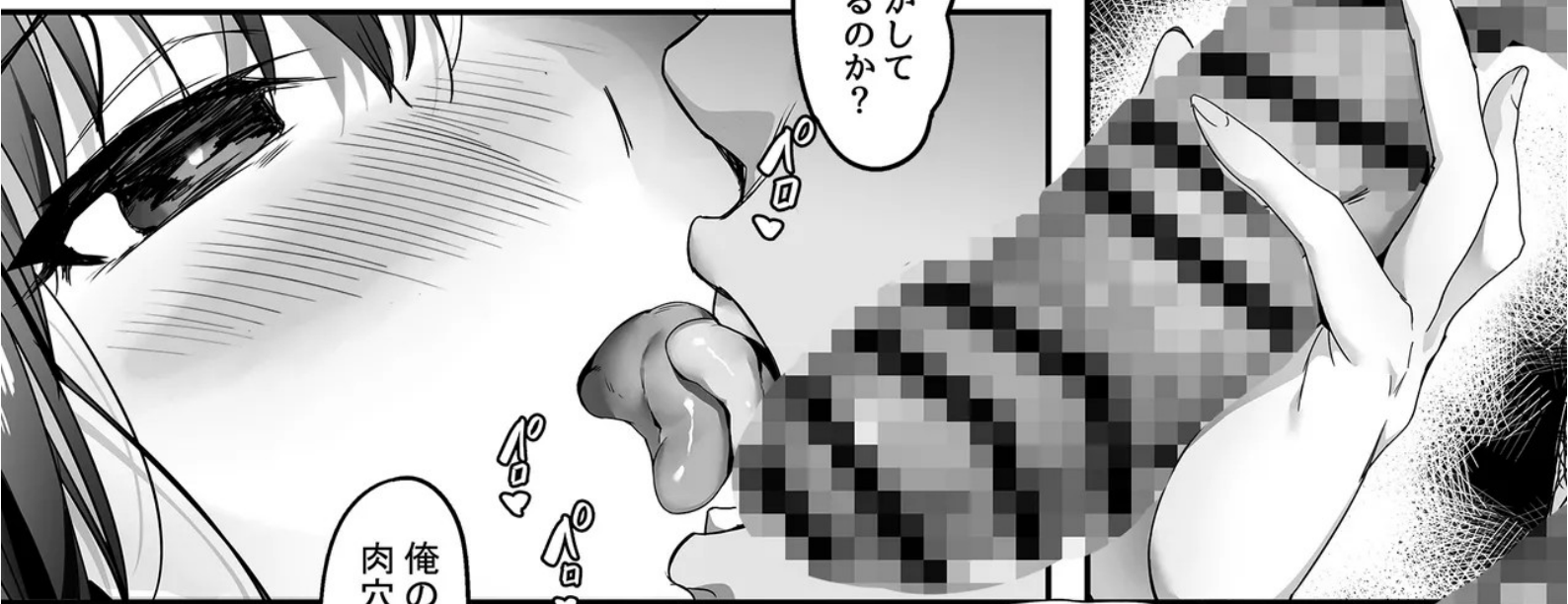
この姿勢じゃあ
舐めることできない

まあいいや
どこだろうと
俺は舐めまくる

んん？



これは…もしかして
しごいてくれるのか？



俺のチンチンで
肉穴をこすっている

こんなことめったにない

は？



チンチンが
穴の上で踊っている
亜矢がそれを
楽しんでいる



この行為いつもは
俺からやるよな
だって亜矢いつも
挿入されるのが怖いって



でも気を
つけろよ
もし滑り込んでも
俺のせいじゃないからな



えっ？
今少し膣内に
入り込んだような



ま...
待って...



あ...



な、
なんだ？

すっ…
滑っていった

こ、
これは
どういうことだ？
マジで
入ってしまった！

でも…

誤って入ってしまった

というよりも
垂矢が自分から
入れたような…

の
やー

！

心の中でそんな疑問は残っていたが身体はすでに本能のまま動き出していた！

でもいま完全に生だぞ初挿入が生なんて

そう思うと興奮しないではいられない！

や、や、や、バ、自分の身体が制御不能に

本当に信じられない俺の肉棒は今まさに亜矢の穴の中

しかも亜矢今回はまったく抵抗していない

身体が勝手に動き出す亜矢の肉壺柔らかくでビシヨビシヨ

今はいったん落ち着いて
理性を取り戻さないと

でも……

おかしいな！

このままいくと
すぐに射精してしまう！

分かっていても
止められない爽快感！

亜矢のアソコ
込み上げてくるほどの快感！

ああああ

もう構ってられるか！

亜矢のマン汁も
飛び散っている
亜矢もきつと楽しんで
いるだろう！

あ！

中出しは
ダメ！

このまま
突き進むしかない！
力尽きるまで
挿入だ

ああ！



精液まみれの
亜矢の顔



この上ない
夢心地



あつ……
食べた！

エ……エロい……



うう……
急にまぶたが
重くなってきた……



やあー！
やあー！
やあー！

ピクッ
ピクッ
ピクッ
ピクッ

う
あ
あ
あ
あ

うわあ！
めっちゃ気持ちいい！
いった時の感覚
それは性的快感の絶頂！

きっと練習で
疲れたんだろう

全身がぐったり
している…

少し寝かせて
くれる？

あつ…
優君お疲れ様…

優君私の
胸の中に

なんか
とても幸せ

なに!?

でも…

ここ数日俺と
会ってるだって
…!?

でも…
私まだイケて
ない…

一体誰のことだ？

なんかいつもと
違う感じ…

たぶん今日優君
香水つけてないからかな

あつ…!!?
なんだって…?

ここ何日か
練習漬けで

亜矢からもらった
香水なんてつけた
ことないけど



.....

亜矢.....
お前大丈夫か？

ごめん...
急に頭がくらくらして...
家に帰って休むことにする

わ...
わかった

身体には気をつけるよ.....

本当に大丈夫か？

なんか心配だな...

カチャー

ここ毎晩

.....
これ一体
どういうことなの？

私いたい
誰とセックスして
たのよ！？



今思い起こしてみると

あの人暗闇の中では
優君と髪型も匂いも
一緒だったけど…

確かに何かが
違ったの

特に…

ペニスが優君のより
大きかった気が



おい、優…

お前
いったいどこに
いたんだよ

どうだ？
リフレッシュ
できたか？

携帯また
没収させてもらうぞ



試合に集中するために
よろしくお願いします



すみません
心配かけさせて



なにぼーっと
しているんだ？

早く練習に
戻れ！



承知しました！



よし！
気を引き締めていけ！

とにかく試合のこと
だけに集中するんだ

はい
分かりました！



ああ……

私どうしちゃったのかしら

頭の中にずっと
あの日のセックス
が思い起こされる

夢のような素晴らしい
性愛の境地

優君？
私のこと
心配してくれたの？

?

今日楽しかった？

これは
優君ではない

あの人だ！

どうやら
ボロが出てしまった

あなたは
誰なの？

それじゃあ
仕方ないな

……
見破られ
てしまった



しょうがないな

俺はお前を女に
仕立てあげた男だ

俺あいつセックス
下手くそだろ？

俺が行って
埋め合わせてやろうか？

……

そういうことね

私ったら
何やってるの

んあっ♡

私欲情して知らない
男に寝取られた

優君私のこと心配
してくれてるのに

んあっ♡

でも……

なんですつとあの男
のこと忘れられ
ないんだろ

あの時の境地を

うあっ♡……

サー

サー

身体がずっと
欲してる……

んあっ♡

もう手の打ちようがないわ

カチヤ

.....

今はただ.....

数日前起こった
夢心地に浸りながら...

私の性欲の灯が
消えるまでただ待つだけ

≠



まさにこれだ……

この肉体
見慣れてないようで
見慣れてる

……
この子

やっぱり満足して
なかったんだな



はやく私を
前みたいに満足させて

ふんっ……

そんなに
焦るなって

いまの俺を
こないだお前を

調教したあの
男と同じだと思うなよ

おいおい!!
待てよ

私もう我慢
できない





んあっ
んあっ

やはり俺が
開発しただけあるな
たった一日空いただけ
でこんなに飢えるとは

私もう
我慢できない……
私のこともう
苦しめないで



んうっ……

毎回思うけど
完璧なおしりだな……

早くわたしに
肉棒……



じゃあ先に
舐めさせてやるよ
んあっ

んうっ……

下はもう完全に
濡れてるし

妊娠する覚悟
でもできたのかな？



うん...♡

この味も悪くないな

欲求不満な女のアソコは味も濃厚なんだな

どう?
入れて欲しい?

うん...
入れて...

お願いしたら
入れてあげる

お、お願い
入れて

バチ

プチヌー

あっ?!♡

ううう…
入ってきた
気持ちいい…

おいおい
そんな
もんかよ

早く淫乱に
うめけよ

じゃないとセックス
止めてやる

んあっ
や、止めないで

私ちゃんと
うめき声上げるから

あっ
あっ
あっ

うあっ
うあっ

うん、この声なら
許してやる

俺がさらに
その声をもっと
大きくしてみせる！







さあ来い！

俺にもっと
懇願するんだ

はい……

あなたの肉棒
入れちゃっていいかしら？

お願い

うん……いいぞ

でも
優しく頼むぞ

うん……♡
あん……♡

あとお尻も上下左右に
しっかり振るように

淫乱に頼むぞ

はい

私頑張って
おしり振るから

いい子だ……

だったら俺からもう少し
ご褒美をあげよう

フュー

フュー

フュー

ん♡あ♡
ん♡あ♡
ん♡あ♡



ああ！
ああ！

な、なんで…？

肉棒がさらに
固くなってる！

聞き分けのいい女は
俺を興奮させるからな

俺達やっぱり
気が合ってるんだな

どうだ？
優なんかとセックス
するより楽しくて
気持ちいいだろ

もっと
大きな声で！

そう……
なんだって
聞こえないぞ

そうです！
あなたとのセックスは
優君より
気持ちいい！

そうだ、
それでいいんだ
それじゃあ、
今回のご褒美
ど・う・ぞ！



ふー気持ちよかった！

こんなすがすがしい
射精感久しぶりだ

いまだんな
感じ？

気持ちいい…
三回も
イッちゃった…

もし今後もこの関係を
維持したければ

今回の件
優に知られちゃダメだぞ

もし知られたら
試合に大きな影響
があるからな、分かったか？

正直、日中お前が優と一緒に
いるのも気に食わないが

夜になって俺に
こうやって懇願してくれるの
なら甘んじて受け入れる

ん？

ん？

……

こ、これは…

どういうことだ？

キャプテン
垂矢と……

うわあ……

俺夢でも見てる
のか？

こんなことどうして
起こるんだよ！

信じられない

訳が分からん

まさか俺とやる前に
キャプテンとすでに
セックスしていたのか

マジかよ

さっき俺初めて
セックスしたのに

くそっ、これは
予想外だ……

気付かれたとしても
試合の後だと思っていたが

これじゃあ
試合への影響は避けられそうも
ないな……こ、これは……

ふんっ、
しょうがねえ

受け入れられない……

まあもう
どうでもいいや

試合なんか
優次第だ

正直言って

俺もこの女のこと
忘れられないんだから

試合なんて自分への
言い訳でしかない

だが、優が今戻ってこなければ
目の当たりにすることもなかった

結局は
自己責任ってことだな

今となつては俺と亜矢は
切っても切れない関係になった

おい、まだ終わってないぞ

今晚は明るくなる
までやるぞ

はい……

非道德だとかなんとか
今は関係ない

俺達は単純にお互い
楽しみ合ってる、それだけだ！

優自身も彼女に
申し訳なく思ってるだろう